

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ 意見まとめ

地区	塩津地区	回数	第1回
日時	平成29年7月22日(土) 午後1時～午後3時30分		
会場	塩津公民館 講義室	参加者数	24名

### 【公共施設マネジメントについて】

#### ■基本的な考え方

今後税収が減っていくことを考えると、市全体として公共施設の数減らしたり集約することで、効率化する必要があることは理解できる。

- ・ 蒲郡市全体として公共施設マネジメントの必要性は理解できた。
- ・ 税収が減っていくので、施設数を減らしたり集約することで効率化する必要があることは理解できるし、賛同もできる。

できれば公共施設を減らして欲しくないの、減らすことを前提にせず、現状を維持する方向で考えることはできないか。

- ・ 公共施設を減らすことを前提に施設の再編を考えなければならないのか。できれば施設を減らして欲しくないと思っているので、現状を維持する方向で考えることはできないか。

現状使われていない施設は公共施設の面積に含めずに1人あたりの床面積を出すなど、より実情を反映したデータを提示してほしい。

- ・ 看護学校などは20年近く使われていないが、そういった現在は使われていない施設は、人口1人当たりの公共施設面積の中に含まれているのか。公共施設の1人当たり床面積を示す際に、そういった利用していない施設まで含まれていると、実情にそぐわない数字になってしまうのではないか。

塩津地区にある多様な公共施設は地区に活気をもたらす良い面がある一方で、子どもたちにとって良い影響ばかりを与えている施設ばかりとは言えない。施設特性によっては居住エリアとは分けて配置すべきものもあると思うので、今回の検討でエリア分けについても考えていきたい。

- ・ 塩津地区にはボートレース場、斎場など様々な用途、業種の施設がある。地区に活気を生むという良い面がある一方で、子どもたちにとってはどうかを考えると、必ずしも良い影響ばかりとは言えない。子どもたちの成長過程の中で身近にあることが心配な施設もあることから、今回の公共施設マネジメントの検討を機に、施設ごとにエリアを棲み分けすることも考えていきたい。

再配置や統廃合の際には、売却を含めた跡地利用方法についても検討し、戦略を持つ必要がある。

- ・ 予算減少の中で再配置や統廃合をする際には、跡地利用のことも考慮する必要がある。例えば 2 つの施設を複合した際には、より土地価格が高い施設の方の土地を処分などの戦略を持つのが良い。

#### ■施設の集約化・複合化

学校に機能を複合して新たな交流拠点を作るとしたら、地区の将来がより充実する様に、様々な地区のデータや先進事例などを参考にしながら、複合する機能を慎重に考えていく必要がある。

- ・ 地域複合施設のイメージとして学校を交流拠点として活用する事例が出ていたが、学校に複合する機能は慎重に考えたい。地域が充実する様な複合施設にするには、より詳しい地区のデータやそれらの他地区との比較、先進事例などを参考にしながら、将来を見据えた検討をする必要があるのではないかと。今回示された園児数、児童数、生徒数だけでなく、空教室や空スペースがどの程度あるのかも示してほしい。

最初に検討を始める塩津地区では、小、中学校を集約化<sup>1</sup>することにしたのに、後から議論する地区ではそうしないことに決まったとしたら、施設の数が減る地区と減らない地区が出てきて不公平になってしまう。市としての統一された方針はないのか。

- ・ 塩津地区では小、中学校を集約化することにしたとして、後から議論する地区が統合しないことに決定したら、市内でばらつきが生じてしまう。市としての統一された方針は無いのか。小、中学校を統合しない地区では、たとえ規模は縮小されたとしても、運動場の広さなどの最低限の国の基準が満たされた施設が現在の数残ることになり、集約化によって数が減る地区との不公平が生じる。

集約化、複合化して新しい施設をつくるとしても、建設するための土地が無かったら土地買収のための費用が発生するので割高になってしまうし、今のままの土地に建てるとしたら、十分な床面積が確保できるだけの広さがあるのかわからないので、そういった情報も事前に提供してほしい。

- ・ 集約化、複合化して新しい施設を建設するというが、そのための土地はあるのか。新たに土地を買う必要が出てくると、土地の買収費用などが発生し、より割高になってしまうのではないかと。
- ・ 新たな施設を建てる土地を新しく確保できないとしたら、今ある土地で建てることになり、敷地が限られる。複合化の議論が理想論にならない様に、施設を複合するのに十分な床面積（土地）が確保できるのかという情報を事前に示してほしい。

<sup>1</sup> 集約化：同一用途、同一機能の施設を 1 カ所に集中させること

学校が複合化することで世代間交流が生まれたり、送迎が楽になるなど子育ての環境が充実されるので、良いことだと思う。

- ・ 最近は核家族化が進んで家族以外の人との関わりがないが、小学校が複合化することで多様な世代や属性の人々が交わる機会が生まれると思うので、子どもの成長にとっても良いのではないかな。
- ・ 少子化対策として2人目、3人目を産むことを奨励するのであれば、幼稚園や保育園と小学校は統合（同敷地内に設置）した方が良い。親が送迎するが楽になるし、きょうだいで連れだって帰ることなどもできるようになる。

学校を複合化するには、子どもの安全性を確保する対策を取るとともに、放課後の遊びや活動に制約が出ないようにして、これまで同様に子どもの居場所を確保してほしい。

- ・ 学校を複合化するには、子どもの安全性確保などセキュリティ対策をとってほしい。
- ・ 学校が複合化されることで制約が生まれ、子どもたちが放課後に校舎やグラウンドで遊べなくなるのは問題だ。これまで同様に校内や児童館で遊べるようにして、子どもの放課後の居場所を確保してほしい。

塩津保育園と塩津北保育園はどちらも園児数が減っているのになかなか統合されない。そのような状況を見ると、今後施設の再配置が順調に行われていくのか疑問を感じる。

- ・ 塩津保育園と塩津北保育園はどちらも園児が減っているのに、なぜ今まで統合されていないのか。統合する方が良い状況にも関わらずされていない状況を見ると、今後の施設の再編が順調に行われていくのか疑問を感じる。

#### ■災害時対応

公共施設の再配置を検討する際には、災害時のことも踏まえて、避難所の数や配置、災害時の対応のあり方についても考えたい。新たな施設を設計するならば、避難所としても使えるように十分な収容スペースや津波対応できる階高を確保してほしい。

- ・ 塩津地区は大震災が起きた場合、地区の半分が津波を被ると言われている。公共施設の再編を検討する際は、日常のことばかりでなく災害時のことも踏まえ、避難場所、避難所の配置や災害時対応のあり方についても考えたい。
- ・ 新たな施設を設計する際には、災害発生時の避難所としての機能も考慮し、十分な収容スペースや津波対応できる階高を確保するようにしてほしい。海に近い南側の住民が避難するのに苦労しないように、塩津地区全域から避難所へのアクセスに配慮する必要もある。
- ・ 公共施設を集約、複合させると、災害時の避難所が少なくなるのではという不安がある。避難所の配置計画も踏まえて、施設再編を考える必要がある。

今後起こりうる地震などへの災害対策を万が一の規模に備えたレベルで考えるのか、それとも被害はさほど大きくないとして考えるのかによって、避難所整備の度合いも変わるだろう。市の考えを知りたい。

- ・ 30年以内に7割の確率で発生すると言われている南海トラフ地震などの災害へ対策を、万が一の規模に備えたレベルで考えるのか、それともこの地域への被害は大きくないと考えるのかによって、どの程度避難所機能を整備するのかが変わってくると思う。市としての考えを知りたい。

## ■施設へのアクセス

鉄道の高架化により踏切がなくなってしまい塩津地区は南北に分断されてしまっているが、現状でも公共施設のほとんどが北側に設置されているので、行くのに時間がかかる地区もある。公共施設が複合化し更に不便にならないように配慮し、各地区から施設までのアクセスの公平性を考えてほしい。

- ・ 鉄道の高架工事によってこれまであった踏切が閉鎖され、歩行者と自転車は高架の歩道、車はアンダーパスの1車線道路になったため、南北の行き来が不便になった。JRと名鉄の分岐の場所にも踏切があったが、危ないという理由で通れなくなった。最短距離では行き来が出来ず、塩津地区が南北に分断された気がする。現在公共施設はほとんど線路の北側に設置されているので、公共施設の再編の際には施設までのアクセスについても配慮し、地区内で不平等感が出ない様にする必要がある。
- ・ 現状でも塩津公民館は鹿島地区からだと歩いて40分かかる。公民館が複合化されることで、更にアクセス面で不便になるのではないかな。

施設を集約化・複合化する場合、施設まで行きにくくなる地域が発生するので、道路の整備や巡回バスの運行などによって、施設へのアクセスを良くしてほしい。また、利用者が増えることを見据えて、十分な駐車場を確保する必要がある。

- ・ 公民館を複合化するのであれば、複合施設まで行く無料の巡回バスを整備してアクセスを確保してほしい。
- ・ 施設を集約化、複合化させるなら、施設まで行きにくくなる地域が発生することを踏まえ、十分な駐車場スペースの確保とアクセスを良くするための道路の整備が必要だ。
- ・ 施設を集約させると利用者数が増えるので、イベントの際等により広い駐車場が必要になるのではないかな。

## 【検討の進め方】

### ■地区個別計画策定に向けた検討の進め方

地区個別計画の策定に向けた検討は、地域住民が公共施設について考え意見を伝える良い機会になると思うので、この取り組みを多くの人に周知し、検討の過程に関わってもらえるようにしてほしい。

- ・ 普段生活をしていると、公共施設のことを考えて意見を伝えたり、情報を得る機会がなかなかない。ワークショップなどに関わると勉強することにもなるので、この取り組みをもっとたくさんの方に知ってもらい、検討の過程に関わってもらえるようにするのが良い。

**施設のことを良く理解し、管理している学校や保育園の教職員に対して、複合化や地域住民との交流についての意見を聞く必要があると思う。**

- ・ 複合化していくことについて、その是非も含めて学校を管理されている小学校や保育園の先生の意見を聞いた方が良いのではないかな。
- ・ 学校の複合利用について、教員達の意見のヒアリングは行っているのか。学校を一番よく知る先生方が、地域の施設として複合化を必要としているのか、地域と交流したい、地域と交流できると思っているのかを聞いてみるべきだ。勝手なイメージだが、先生方、特に教育委員会はそう考えていないのではないかな。以前このような公共施設マネジメントの会議があった時に、参加されていた先生は複合化について発言せず、黙っていたのでそう感じた。

#### ■ワークショップの進め方

**地区ごとに公共施設の再配置を検討するのであれば、市全体ではなく地区の公共施設の現況と課題を把握する必要があると思うので、学校の空き教室数や公民館の目的に応じた部屋ごとの利用率など、塩津地区の地区利用型施設のデータを提示してもらいたい。他地区との比較もできると良い。**

- ・ 地区ごとに公共施設の再編や複合化を検討するのであれば、まず塩津地区の現状や課題を知らなくてはいけないのではないかな。市全体の公共施設のデータではなく、塩津地区の現状データを示してほしい。それらを把握した上で取組んでいきたい。
- ・ 市全体のデータは本日の説明資料で示されたので理解できたが、次回は同じ内容で塩津地区を抜粋したデータがほしい。他地区との比較もあると良い。
- ・ 「将来の地区利用型施設の配置や活用方法を示す地区個別計画を中学校区ごとに策定する。その進め方はワークショップ等を実施し、住民の考え方やアイデアを取り入れる」ということならば、まず塩津地区の7つの地区利用型施設の現状データを把握する必要があると思う。
- ・ 参考資料で園児数、児童数、生徒数、公民館は年間利用者数や利用率のデータがあったが、学校の空き教室数や公民館の目的に応じた部屋ごとの利用率も理解した上で話し合いを進めれば、効率的で多様な活用方法を検討することができるだろう。
- ・ 塩津公民館は稼働率 16.8%とあるが、具体的な使用目的がわからないと規模を縮小して良いかどうかの判断ができないと思う。例えば、子供のための行事を行っているならば、地域にとって大切なことなのでたとえ稼働率が低くても縮小せずに残すべきだろう。稼働率だけを見て判断するのではなく、使用目的の内訳を知った上で検討すべきで

はないか。

地区利用型施設の再配置を検討する場にも関わらず、市全体の 1 人あたりの公共施設面積、それも市民のためだけではないポートレース場の様な施設まで含めたデータを示されると、誘導するために市の都合の良いデータを出しているのではないかと勘ぐってしまう。

- ・ 人口 1 人あたりの公共施設面積 (㎡) は、「他市より広く面積がとれている」との説明だったが、市民のためだけの施設ではない、特殊な用途のポートレース場の面積を含めて算出しているのだとしたら意味がない。ポートレース場を除いた 1 人あたりの公共施設面積を示してほしい。
- ・ 全市利用型施設ではなく地区利用型施設の再編を検討するのがワークショップの目的なのに、ポートレース場も含めた全市利用型施設で 1 人あたりの公共施設面積を算出したデータを示すのはおかしいと感じた。市の都合が良い様に誘導されていると思うてしまう。

現状使われていない施設は公共施設の面積に含めずに 1 人あたりの床面積を出すなど、より実情を反映したデータを提示してほしい。

- ・ 看護学校などは 20 年近く使われていないが、そういった現在は使われていない施設は、人口 1 人当たりの公共施設面積の中に含まれているのか。公共施設の 1 人当たり床面積を示す際に、そういった利用していない施設まで含まれていると、実情にそぐわない数字になってしまうのではないか。

地区個別計画の策定を塩津地区から始める理由や他地区との比較を、データを示して説明してほしい。

- ・ 口頭で説明はあったが、なぜ塩津地区から取組むのかをデータでも示してほしい。地区利用型施設だけを抜粋して市全体の 1 人あたりの面積を算出し、さらに地区ごとでも面積を出して比較できるようにしてほしい。
- ・ 公共施設の床面積のデータは市全体のもので地区ごとのものがない。塩津地区の公共施設が市の他の地区と比べてどういう状況なのかを知りたいので、対象 7 施設の面積を地区人口で割った床面積のデータも提示してほしい。塩津地区を優先的に進める必要があるのか知りたい。

市民アンケートを年代別に集計し、世代ごとの考え方の傾向をつかめると、各々の世代が何を重視しているのかが見えてくるので、各施設のメインターゲットの意向を汲んだ、活用方法を提案することができるのではないか。

- ・ 市民アンケートは年代別に集計をして、世代ごとの公共施設マネジメントの考え方の傾向をつかむ必要があると思う。世代ごとで何を重視しているのかが見えてくるので、

各施設のメインのターゲットとなる利用者の意向を汲んだ、多様な活用方法を提案することにつながるのではないか。

**ワークショップの開催日程は、なるべく多くの人に参加できるように地元の行事などの日程を確認した上で決定してほしい。**

- ・ 第3回が10月15日に予定されているが、この日は塩津地区でお祭りがあるのでワークショップに参加できない人が多いのではないか。なるべく多くの人に参加できるように、地元の行事の日程を確認した上で日程を決めてほしい。

**ワークショップで出された意見は、一部だけではなく全て公表してほしい。**

- ・ ワークショップで出た意見は公表されるのか。「かわら版」で公表されるのであれば、一部の意見だけではなく全て公表してほしい。

#### **【地区のまちづくりの方向性】**

**塩津地区は現状では特徴がないが、将来どんな地区にしていきたいかというビジョンを考える必要がある。たとえば子育てしやすい地区という方向性は考えられるのだろうか。**

- ・ 塩津地区の特徴がほしい。現状では工業地区でも、住宅地域でも、商業地域でもない。将来のビジョンを考える必要があるのではないか。
- ・ 塩津地区は子育てしやすい地区なのか。またそのような地区になっていくのか。

**同じ塩津地区の中でも、昔からの人が多い地区と外国人などの新しい住民が相当数いる地区とでは、地域住民のつながりの度合いが異なる。日本語がわからない場合も多い外国人との関係を築くためには、場を設けるだけでなく運営の工夫や人材が必要だ。**

- ・ 柏原では地域の大人たちが子どもたちを見守る目がある。古い地区で昔から住んでいる人が多く、外からあまり人が入って来ない。新しい人が来ても地区住民の子どもや孫で、顔見知りなことが多いので、どこの誰の子どもかわかる。子育てをしやすいと思う。
- ・ 川東は外から人、特に外国人が入ってくるので、住民がお互いのことを良く知らない。外国の人は親が日本語がわからなかったり、単身の人も多い。
- ・ 外国人は彼らのための施設を作ったとしても、それだけでは来ない。名古屋では、NPO等がサロンを作って招いている。場を作り、呼びかける活動する人が必要である。塩津中学校では子ども日本語教室があり、そこで親の繋がりができつつある。運営次第だと思う。

**お祭りは3つあるが地区ごとに行われているので活気に欠ける。今は塩津全体で行う取り組みが運動会しかないなので、世代間交流ができる機会と場所を作りたい。**

- ・ 世代間交流がしたい。それができる場所はどこかにあるのか。塩津にはお祭りが3つあるが、地区ごとに分かれて行われているためさみしい。塩津全体で行う取り組みは運動

会だけである。世代間交流ができる場をつくりたいと思っており、考えてもいる。

### 【公共施設の現状や今後について気になること】

#### ■公共施設全般

地区の公共施設が使いづらいとかスペースが足りないので困ったという話は耳にしたことがない。

- ・ 地区の公共施設について、使いづらいとかスペースが足りないといった困ったことを耳にしたことがない。

公共施設全般的に耐震工事で補強されているのか。児童館以外は老朽化しているので安全性が心配だ。

- ・ 公共施設全般的に耐震工事で補強されているのか。児童館以外は老朽化しているので安全性が心配だ。

公共施設は限られた人しか使っておらず、日常的に広く一般市民に利用されていないのではないかと。自分が使うとしたらどのように使うのかイメージすらできない。

- ・ 公共施設は限られた人だけが利用するものになっていて、日常的に広く市民一般に利用されていないのではないかと。
- ・ 地区にある公共施設をどのように使っていくかというイメージが分からない。今後、自分がどのように使っていくかというイメージさえできない。
- ・ 塩津公民館は選挙の時しか来ないので、どのように使用されているか知らない。利用率などの実態は良くわからないが、あまり使われていないのではないかと。もっと活用すべきだと思う。
- ・ 公共施設の利用状況はどうなっているのか。施設によって利用率が高いものと、そうでないものがあるのではないかと。

公園の管理が行き届いていないため、ボランティアで対応している状況だ。遊具やトイレの整備、草刈りなどの管理体制を整え、だれが何をするのかを明確にしてほしい。

- ・ 公園の遊具がいたずらをされたからと撤去されてしまったり、管理が不十分で雑草が生えていたりして使いづらい。住民がボランティアで草刈りをして対応しているが、遊具やトイレの整備や草刈りなどの管理体制を整え、だれが何をするのかを明確にしてほしい。

公共施設に十分な駐車スペースがないため、路上駐車が発生して近隣に迷惑をかけている。施設を建てる際には駐車場の整備もあわせて検討してほしい。

- ・ 学校や公民館などの公共施設を利用する際に、駐車スペースが十分でないため路上駐車が発生してしまい、近隣の方に迷惑をかけることがある。施設を建てる際には駐車場

の整備も合わせて検討してほしい。

#### ■小学校・中学校

小中学校の空き教室があるならば高齢者用の施設として有効活用してほしい。公民館のスペース不足やアクセスの不便さを補えると思う。

- ・ 小中学校の空き教室がどの程度あるかを調べた上で、空き教室があれば高齢者向けの施設として有効利用してほしい。公民館のスペース不足やアクセスの不便さを補えると思う。

児童クラブが定員いっぱいに入れなかったり、1年生だけは保育園で過ごさなければならぬ状況を改善してほしい。施設の複合化によって、全学年が同じ場所で過ごせる児童クラブが整備できると良い。

- ・ 塩津小学校の児童クラブは、1年生のみ塩津保育園で行われている。施設を複合することで全学年が同じ場所で過ごせる児童クラブが整備できると良い。
- ・ 児童クラブが定員いっぱいに入れない状況だ。

きょうだいの少ない家庭が増えているなか、小学生と中学生の交流も重要な多世代交流の1つなので、小中一貫校の創設に取り組むことは大切ではないか。市で小中一貫校の視察を行っているのなら事例を示してもらい、その効果について職員の生の意見も聞きながら検討したい。

- ・ 多世代交流の一環として、小学生と中学生の交流も重要である。きょうだいがいる家庭が減少してきているので、以前なら家庭内や近所で自然とできていた子どもたち同士の交流が減ってきている現状を踏まえると、小中一貫校の創設に取り組むことは大切だと感じている。
- ・ 今回出された事例だと、公共施設の複合化で塩津地区にとってどのようなメリットがあるのかが伝わらない。市の職員が調査をしているだろうから、視察をした複合施設や小中一貫校を事例として提示してもらい、複合化や小中一貫校の効果について職員が感じた生の声も聴きたい。

小中学校は地区の行事に使うこともあるが、トイレの数が足りなかったり、古くて使いにくいという問題がある。また、災害時に備えて貯水槽の水を仮設トイレに使える様にする等の対処も必要になる。

- ・ トイレが古くて狭いため使いにくい。特に女性が苦勞されている。年1回だが地区の運動会で自分たちも使うことがあるので、使いやすいトイレにしてほしい。
- ・ 行事等でトイレを使うときは皆が一斉に使うので数が足りず、児童館に行かなければならないこともある。
- ・ 災害時に小学校を避難所に使うならトイレは充実させるべき。和式は使いづらいので

洋式にしてほしい。

- ・ 災害時にはトイレは故障して使えないかもしれない。貯水槽の水を仮設トイレに使える様にする等の対処が必要になるのではないかな。

## ■保育園

公立の保育園は、就労や保育できない理由があることが入園の条件になっていたり、定員割れしていても規程があるので3歳未満児を預かってもらえなかったりして、使い勝手が悪い。保育園料の設定は不透明で民間の方が安い場合もあるので、制約の多い老朽化した設備の公立から、より活気がある私立の保育園に園児が流れているのではないかな。

- ・ 保育園料が不透明である。親の所得によっては民間の方が安くなることもある。
- ・ 市の保育園は親の就業状況等の制限があるので、入る手続きが大変だ。
- ・ 市は待機児童はいないと言っているが、就労していないと入れない等の規制があるため希望する園に入れられない。保育施設の使い勝手は悪いと思う。
- ・ 塩津の保育園は定員割れしているのにも関わらず、3歳未満児は規定上預かってもらえないため、他地区の保育園に預けている。
- ・ 市にある保育園の園児数を知りたい。塩津保育園は民間の保育園に園児が流れて、通う子どもが少ないのではないかな。
- ・ 保護者は、市は塩津保育園を廃止予定なので今後建て替えを行わない、状況が改善されないと考えているので、いっそう塩津保育園から離れていく。
- ・ 市と民間の保育園の運動会が全然違う。親の熱が違う。民間の方が元気がよい。
- ・ 市立の保育園の入園条件が厳しくなり、就労していることや保育できない理由がある場合のみになったことが園児の減少につながっているのではないかな。

塩津保育園は老朽化が進み、地震の際に不安があるのに加え、雰囲気も暗い。塩津北保育園は、生活道路に面しているため安全面に不安がある。どちらの園も親にとって魅力に欠けている。

- ・ 塩津保育園は老朽化が進んでおり、暗くて雰囲気も良くない。子どもがかわいそうだ。通うのに近いのは良いと思っているが、古いので地震が起きた時にどうなるかと考えると怖い。保護者からそういった苦情をよく聞く。塩津保育園には魅力がない。
- ・ 塩津北保育園は生活道路に隣接しているので園児の安全面に不安がある。
- ・ 芝生を敷きかえる必要があるのではないかな。

市内の保育園が自由に選べるのは良いことだが、延長保育のある園に園児が集まり、延長保育がない園は定員割れになっているようだ。効率を重視すれば定員に満たない園を統廃合することになるのだろうが、車が使えない家庭にとって近隣の保育園がなくなることは負担になるので、弱い立場の人に配慮し、公共のための施設という観点を忘れないでほしい。

- ・ 越境通園が可能なので、市内であれば保育園を自由に選ぶことができる。そのため、自家用車を持つ家庭は、延長保育がある保育園を選ぶことができるようになったのは良いことだと思う。
- ・ 延長保育がある保育園に園児が集まる一方で、延長保育がない保育園は定員割れをおこしているようだ。データを重視すれば定員割れした保育園を統廃合することになるのだろうが、徒歩や自転車に通園するしかない家庭にとっては近隣の保育園がなくなるとは負担になる。効率化を重視しすぎると、弱い立場の人にしわ寄せがおきてしまうので、公共のための施設という観点も忘れないでほしい。

山の上にある塩津保育園の立地は通園に不便である。塩津保育園及び塩津北保育園は、共に地区の北側にあるため南側の住民にとっては通うのが大変だ。再配置する際には通園の利便性や、地区内で不平等が起きないことに配慮してほしい。

- ・ 塩津保育園と塩津北保育園は地区の北側にあるので、南側の人は通園させるのが大変だ。再配置する場合には、地区内で不平等がおきないように、アクセスへの配慮が必要だ。
- ・ 塩津保育園は山の上にあるため通園が不便だ。

送迎の手段に関わらず、自宅近くの園は親にとって利便性が高いので自宅の近くで預けたい。地区内の保育園に通えたと卒園後に同じ小学校に通えるので子供にとっても良い。自宅から通いやすい園に入園できるように数を減らさず、市の保育園を維持してほしい。

- ・ 保育園に通うくらい小さい子どもは、働く親が送り迎えをしやすいように自宅から通いやすい所に預けられる方が良い。複合化や集約化によって数を減らさず、市の保育園を維持してほしい。
- ・ 車で送迎してはいるもののやはり便利なので自宅近くの施設で預けたい。地区内の保育園ならば卒園後に同じ小学校に通えて、継続的な友達関係が築けるので子供にとっても良いのではないか。

塩津保育園には発達支援が必要な未就園児のための親子教室がある。全市として対応していくための方策、施設の整備を考えられると良い。

- ・ 塩津保育園には発達支援が必要な未就園児のための親子教室がある。全市として対応していくための方策、施設の整備を考えられると良い。

検討の対象は公立の保育園のみとのことだが、公立に入園できない人は私立に入園させることになるので、塩津地区の保育環境を考えるならば、私立の保育園も含めて考える必要があるのではないか。

- ・ 入園制限がある公立に入園出来ない人は私立の保育園に入園させることになる。南側には私立のあけぼの保育園があり、南側の方はそちらに通わせていることが多い。今回

は公共施設が対象とのことだが、塩津地区の保育環境を考えるならば、公立保育園だけでなく私立の保育園も含めて考える必要があるのではないか。

#### ■児童館

しおつ児童館は運用がしっかりされており地域住民の役に立っていると聞いている。学校が複合化されたとしても、これまでどおり、子ども達の遊び場、居場所は場として確保されるべき。

- ・ 学校が複合化されることで制約が生まれ、子どもたちが放課後に校舎やグラウンドで遊べなくなるのは問題だ。これまで同様に校内や児童館で遊べるようにして、子どもの放課後の居場所を確保してほしい。
- ・ 利用したことはないが、しおつ児童館には良いイメージを持っている。運用がしっかりなされており、地区住民の役にたっているようだ。活用されている施設は直接利用していない人の耳にも良い噂として聞こえてくる。

#### ■公民館

公民館に関する情報発信が足りないので、どんな行事が行われているのか知らないし、場所もわからない人が特に若い人に多い。積極的に情報を伝え、行事や活動の内容自体も魅力あるものにすべきだ。

- ・ 公民館の場所を知らない人が多い。特に若者は知らないと思う。情報発信が足りないと感じる。「公民館だより」を定期的に発行しているものの、どのような行事があるのかも伝わりにくい。
- ・ 積極的な情報発信と共に、公民館で行っている行事や活動の内容自体を今より魅力的にする必要があるだろう。

魅力を感じる身近な公共施設がないので、地区の若者のまちへの関心がなくなってきているようだ。若者にとって唯一の身近な公共施設である小、中学校に公民館を複合させれば、公民館に対する意識を変え、利用を促すことができるかもしれない。

- ・ 魅力を感じる身近な公共施設がないので、地区の若者のまちへの関心がなくなってきている。若者にとって唯一身近に感じる公共施設は小、中学校だろう。公民館を若者にとって身近な存在にする方策として、既に身近な学校と公民館を複合化するということは考えられる。

公民館は老朽化が進み、玄関のスロープやエレベーターがないため高齢者や障がい者にとって使いにくいのでバリアフリーに配慮してほしい。エントランスは入りにくい雰囲気もあるので、開かれた雰囲気にしてほしい。

- ・ エントランスの雰囲気が入りにくい。もう少し開放的な雰囲気にはできないだろうか。
- ・ 建物の老朽化が進んでいる。トイレは洋式に改修されてはいるが、エレベーターもない。

- ・ 現状では玄関のスロープやエレベーターがない。玄関で履物を脱ぐのにも手間がかかる。高齢者や障がいを持った方も利用しやすいようにバリアフリーに配慮してほしい。

地区の各総代区には各々の集会所があるので、日常的にはそれを利用している。公民館の利用を促すには、地区内の各所からのアクセスを向上させる必要がある。また、集会所を充実させることも必要だ。

- ・ 塩津地区は各総代区には集会所がある。身近にそういう施設があるので、公民館に行かなくてもそれで十分という人も多いただろう。公民館は運動会等の塩津地区全体の行事の時だけ利用している。
- ・ アクセスが不便な地区もあるために、公民館を身近に感じないのかもしれない。各地区から塩津公民館までのアクセスの向上を検討してほしい。
- ・ 身近で行ける場所として地域の集会所を充実させてほしい。

#### 【その他：質問など】

- ・ 地区個別計画の対象は、資料にある7施設だけなのか。塩津地区内には他にも地域が保有する公民館があるが、それらは今回の対象外なのか。
- ・ ワークショップのグループは今後も固定なのか。
- ・ 平成27年に市民アンケートを実施しているとのことだったが、そのこと自体知らなかった。いつ、どのような方法でどの範囲に配付したのか。